

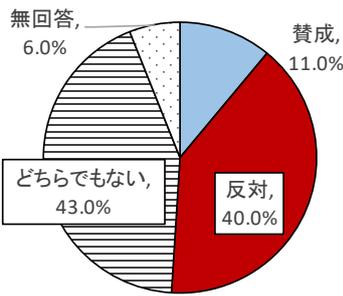
訪問看護ステーションへのオンライン資格確認の原則義務化 健康保険証廃止に伴うアンケート調査結果

政府は、2024年秋に現行の健康保険証を廃止し、マイナンバーカードに一体化（以下、マイナ保険証）する方針である。それに向けて、訪問看護ステーションに対してもオンライン資格確認を原則義務化することを示した（2023年10月18日 中央社会保険医療協議会「答申」）。

当会では、山口県内の訪問看護ステーション（198事業所）に対し、現場の意見を伺うべくアンケート調査を行い（2023年11月22日～12月14日）、5割を超える100事業所からご回答頂いた（回答率：50.5%）。



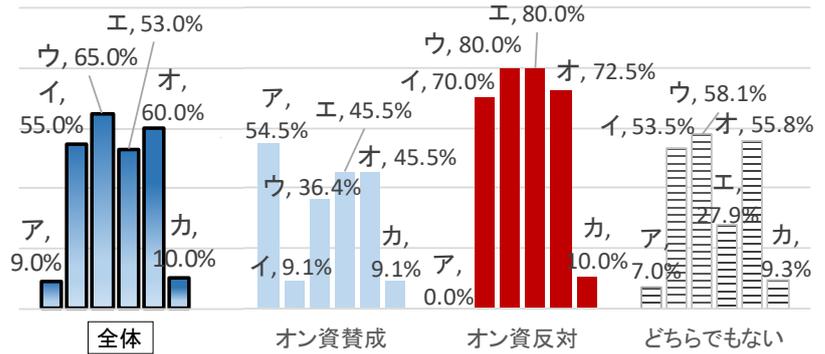
1. 2024年秋にオンライン資格確認を原則義務化する方針について



「カ. その他」の例

- ・パソコン、スマートフォンの使用が普通の人以下で操作困難（使いきれない）
- ・準備が整う前に義務化するのは早急すぎる。
- ・事務所に確実に保管できる場所や金庫がない
- ・手続きができない人もいるのではないかなど

2. オンライン資格確認に対する意見・危惧される影響（複数回答）



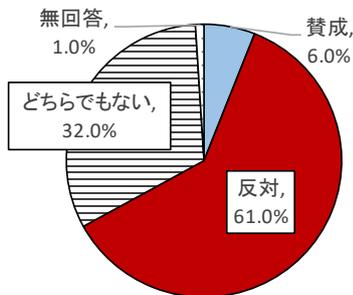
- ア. 業務の効率化や患者の利便性向上につながるので推進すべき
- イ. 物理的に対応できない患者がほとんどで必要性を感じない
- ウ. 患者への利用案内・支援など事務負担が増える
- エ. 設備投資やランニングコスト上の負担がある
- オ. 情報漏洩やセキュリティ対策が不安である
- カ. その他

【オンライン資格確認（オン資）原則義務化について】（1. 2）

オン資の原則義務化の方針については、「反対」が4割で、「賛成」は1割にとどまった。

危惧される影響等は、「患者への利用案内・支援など事務負担が増える（ウ）」「情報漏洩やセキュリティ対策が不安である（オ）」との回答が6割を超えた。オン資の原則義務化に「賛成」とした5割が「業務の効率化や患者の利便性向上につながるので推進すべき（ア）」とし、「反対」とした事業所の8割が「設備投資やランニングコスト上の負担がある（エ）」、7割が「物理的に対応できない患者がほとんどで必要性を感じない（イ）」と回答した。

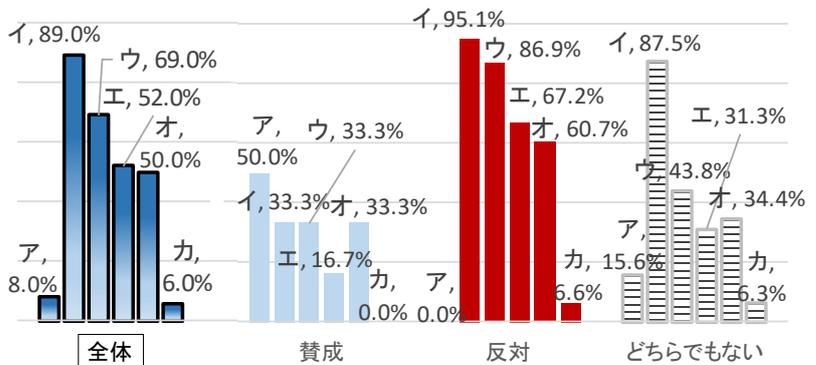
3. 2024年秋に健康保険証を廃止する方針について



「カ. その他」の例

- ・高齢者、精神疾患の方、知的障害のある方だと、申請が正しくできるのか。
- ・すべて廃止にすると困る人がいるのではないかな？
- ・デメリット、メリットを明確に示すことが必要かと思う。

4. 健康保険証廃止に対する意見・危惧される影響など（複数回答）



- ア. 業務の効率化や患者の利便性向上につながるので推進すべき
- イ. マイナカードの取得・利用が困難な患者への対応が増加することを懸念する
- ウ. 保険証と一体化したマイナカード（暗証番号含む）の管理が困難となる
- エ. 5種類もの資格確認の方法では対応困難で混乱する
- オ. マイナ保険証では情報漏洩やセキュリティ対策が不安である
- カ. その他

【健康保険証廃止について】（3. 4）

健康保険証を廃止する方針については、「反対」が6割で、「賛成」は1割にも満たなかった。

危惧される影響等は、9割が「マイナカードの取得・利用が困難な患者への対応が増加することを懸念する（イ）」、7割が「保険証と一体化したマイナカード（暗証番号含む）の管理が困難となる（ウ）」と回答し、健康保険証の廃止方針に「賛成」「反対」の回答層いずれからも多かった。また、「5種類もの資格確認の方法では対応困難で混乱する（エ）」「マイナ保険証では情報漏洩やセキュリティ対策が不安（オ）」とする回答は5割だが、健康保険証の廃止方針に「賛成」とした事業所からも選択があった。

5. オン資原則義務化・健康保険証廃止に対する要望、政府方針への意見など

※主な意見の抜粋
(全編は「資料」参照)

回答	オン資義務化	保険証廃止
方針変更が早すぎ。もう少し時間をかけて数々のシミュレーションを行うべきでは。	反対	反対
保険証は、職場を次々と転職する方も多いので、任継（任意継続）など増々混乱が生じてしまいそうです。	反対	反対
国民の意見がまとまらないまま進めてよいものではないと思います。今までのメディアからの情報での意見になりますが、まだ話し合いをして検討が必要だと感じています。	反対	反対
認知症の人が多くなると言われているのに暗証番号を思い出せないと使用できないのでは？ 他者が悪用するのではないかと考えると義務化は不安、マイナ保険証がコンパクトになると紛失する危険が大きいのでは。	反対	反対
高齢者は、マイナカードを持っていない方のほうが多い。健康保険証があった方が安心して考える。マイナカードの管理がむずかしい。	反対	反対
マイナカードに一体化されると、4桁の暗証番号がわからない利用者や認知症の利用者は、本人がマイナカードを保管していないため、確認に時間を要し、仕事量の増加と、事業収入のバラつきが懸念される。	反対	反対
現行の確認方法で問題がない。事務負担が増加すると考える。システム導入や周知が大変。	反対	反対
一律にするのはムリがある。臨機応変な対応が可能ないようにしてほしい。保険証を管理することが困難な方々にマイナカードを管理できるとは思えない。どうせするなら、生体認証などにして欲しい。	反対	反対
一般の方でも混乱しているように感じるのに、高齢者の方がそれを理解できるのか。認知症状が進んで余計に管理が困難になるのでは……とってしまう。	反対	反対
一人暮らしや老夫婦世帯、認知症の方が多く、新しい制度が決まってもできるとは思えない。現場が大混乱になることは、目に見えています。現場の声を聞いて欲しいです。	反対	反対
この制度に言語道断！！	反対	反対
ある一定の年代、世代からの一本化ならまだ良いと思います（せめて）。	反対	反対
（一人暮らし）高齢者、精神障がい者の方への説明、拒否などある方への説明、対応に業務以外で時間をとられる。コストがかかるがどれだけ国からの支援があるのか全額ではないのか。セキュリティ対策の信憑性。	反対	反対
とくに、認知症で一人暮らしの方への対応困難が不安である。	どちらでもない	反対
病院でも保険証のところあり（読みとり機器と通信の状態）。解決すべき事と進む指針がわからず、先行してほしくない。”	どちらでもない	反対
推進するのは国の施策ですが、問5：選択肢の2つ目（物理的に対応できない患者）、3つ目（患者への利用案内・支援など）の項目のような弱者に対して、誰がサポートするのかを考えて欲しい。	賛成	どちらでもない
暗証番号管理で困ることが確実。	賛成	どちらでもない

【その他自由意見】(5.)

オン資の原則義務化、健康保険証廃止に対する要望や政府方針については、「反対」とする意見の事業所から多く寄せられた。「この制度に言語道断」「現場の意見を聞いてほしい」などの強い意見とともに、対応できない、不安である、など現場が混乱する趣旨の意見が多かった。また、オン資の原則義務化には「賛成」であっても、健康保険証廃止は「どちらでもない」として、「弱者に対して誰がサポートするのか考えてほしい」「暗証番号で困ることが確実」などの意見があった。

【まとめ】

政府は、現行の健康保険証を2024年秋に廃止し、マイナンバーカードに一本化させる法案を成立させた。その法案審議を前後して、健康保険証情報の誤登録や漏洩、「資格無効」との表示など、マイナ保険証による資格確認をめぐるトラブルが相次いだ。当会ははじめ全国保険医団体連合会が実施してきた影響調査で、医療現場でのトラブルや患者への弊害が明らかとなり、多くの患者、国民の間に不安が広がり社会問題化した。こうした事態に対し、政府が場当たりの対策を示した結果、資格確認に必要な証明書が5種類（別記）も提示されるなど、このまま健康保険証が廃止されれば、現場の混乱は避けられないことは明らかである。とりわけ、訪問看護を利用される高齢者が療養している居宅、介護施設等の現場においては、様々な影響が及ぶことが危惧される。

本調査で、オン資の原則義務化、健康保険証の廃止方針ともに、「どちらでもない」とする意見が一定数見られたのは、現状では「よくわからない」ため、不安であることを反映したものと考えられるが、特筆すべきは、「賛成」が圧倒的に少なく、「反対」が多かった点である。すでに医療現場で起きているトラブルが、訪問看護の現場においても起きてしまうという懸念がうかがえる。とりわけ、健康保険証の廃止方針については、「マイナカードの取得・利用が困難な患者への対応」「マイナ保険証（暗証番号含む）の管理」を危惧する回答がほとんどであったが、認知症患者や寝たきりの高齢患者を日夜看護している現場の意見としては当然である。患者自身が物理的に対応できなければ、オン資の原則義務化についても「必要性を感じない」となるであろう。一方、政府が盛んに強調する「業務の効率化や患者の利便性向上につながるのを推進すべき」とする意見は、回答数としては数少なかった。つまり、政府が喧伝する構想に対して、現場では「そうならない」と考えている結果となった。加えて、事務負担やコスト負担、情報漏洩やセキュリティ対策など、これまで必要なかった問題に対処しなければならぬことへの不安や不満が「反対」の意見につながったと言える。

総じて、本調査からは、政府が遮二無二に推し進めるオン資の原則義務化や健康保険証廃止は無理筋であり、「健康保険証を残す」ことが、現場を混乱させず、患者、国民の不安に応えるものだと結論付けることができる。健康保険証は国民皆保険制度の根幹となるものである。当会では、安心して医療を受けることができるよう、健康保険証を残すことを強く求めるものである。

（別記）資格確認に必要な5種類もの証明書

新たな「証」	どのようなものか	問題点など
マイナ保険証	<ul style="list-style-type: none">健康保険証を廃止し、マイナンバーカードと一体化医療機関に設置されたカードリーダーにかざすことで資格確認を行う	◎オンライン資格確認システムにおいて様々なトラブルが発生することが明らかとなった。マイナ保険証では資格を確認できない事例が多発しており、下記のとおり別の「証明書」が必要となっている。
暗証番号なしマイナ保険証（2023/12/15導入）	<ul style="list-style-type: none">暗証番号の設定に不安のある人、代理申請の負担軽減を理由に交付	◎顔認証できなかった場合に、暗証番号による資格確認ができない ◎暗証番号が必要なサービスが受けられないため、マイナカードのメリットなく保険証と全く機能は同じ。
資格確認書	<ul style="list-style-type: none">マイナ保険証を持たない人に交付氏名、生年月日、被保険者等記号番号、保険者情報などが記載され、紙または電子データで提供	◎健康保険証と同じ情報が記載。 ◎首相表明（8/4）により、その後の「政策パッケージ」（検討会）最終とりまとめ（いずれも8/8）において、取扱いが見直された（マイナカード不保持者への職権による交付、有効期限を5年に延長）。
資格申立書	<ul style="list-style-type: none">マイナ保険証等で資格確認できない場合に患者が記載患者にマイナポータルにアクセスさせて情報を提示させる、健康保険証で確認する等の手立てがとれない場合に記載してもらう、とした	◎「保険種別」、「保険者名称」、「負担割合」などの記載が求められるが、患者にとっては書けない場合が多い。そうすると、例えば「保険種別」が不明で、レセプト提出先がわからない、といった問題が指摘される（厚労省は「医療機関の判断」とした）。
資格情報のお知らせ	<ul style="list-style-type: none">マイナ保険証保有者がオン資システム導入免除医療機関を受診する場合にマイナ保険証とともに提示する、などとした	◎デジタルによる交付を想定しているが、高齢者に対して紙ベースでの交付となればそれにかかる手間は大きい。

【資料】自由意見欄（オン資原則義務化・健康保険証廃止に対する要望、政府方針への意見など）に寄せられた全意見

回答	オン資義務化	保険証廃止
方針変更が早すぎ。もう少し時間をかけて数々のシミュレーションを行うべきでは。	反対	反対
保険証は、職場を次々と転職する方も多いので、任継（任意継続）など増々混乱が生じてしまいそうです。	反対	反対
保険証だけでなく、限度額認定証、福祉医療受給者証、特疾等々も一緒に確認できるならありがたいです。訪問看護はそれぞれナースが在宅に行くのでオンラインで確認できる機械も複数台いると考えられ、導入費用が心配です。	反対	反対
変化に対して困り、対応できず、相談のために電話や来訪されスタッフが時間を費やされ業務が増える可能性が高い。それが時間外労働に影響するのではと懸念される。	反対	反対
認知症の人が多くなると言われているのに暗証番号を思い出せないと使用できないのでは？ 他者が悪用するのではないかと考えると義務化は不安、マイナ保険証がコンパクトになると紛失する危険が大きいのでは。	反対	反対
指針や具体的なガイドライン、説明を求める。	反対	反対
国民の意見がまとまらないまま進めてよいものではないと思います。今までのメディアからの情報での意見になりますが、まだ話し合いをして検討が必要だと感じています。	反対	反対
高齢者は、マイナカードを持っていない方のほうが多い。健康保険証があった方が安心すると考える。マイナカードの管理が難しい。	反対	反対
高齢者（独居の方等は特に）などにも、くまなく周知徹底できるのか疑問。	反対	反対
現行の確認方法で問題がない。事務負担が増加すると考える。システム導入や周知が大変。	反対	反対
義務化・廃止は、高齢者の混乱・不安が増大するだけだと考えます。高齢者だけでも現状維持（現行制度のまま）で、お願いしたいです。	反対	反対
一律にするのはムリがある。臨機応変な対応が可能なようにしてほしい。保険証を管理することが困難な方々にマイナカードを管理できるとは思えない。どうせするなら、生体認証などにして欲しい。	反対	反対
一般の方でも混乱しているように感じるのに、高齢者の方がそれを理解できるのか。認知症状が進んで余計に管理が困難になるのでは……とってしまう。	反対	反対
一人暮らしや老夫婦世帯、認知症の方が多く、新しい制度が決まってもできるとは思えない。現場が大混乱になることは、目に見えています。現場の声を聞いて欲しいです。	反対	反対
マイナカードに一体化されると、4桁の暗証番号がわからない利用者や認知症の利用者は、本人がマイナカードを保管していないため、確認に時間を要し、仕事量の増加と、事業収入のバラつきが懸念される。	反対	反対
そもそも、マイナンバーカードを作成していない高齢者が多い。対応不可。	反対	反対
この制度に言語道断！！	反対	反対
ある一定の年代、世代からの一本化ならまだ良いと思います（せめて）。	反対	反対
それまでの間、どうしてもマイナ保険証の利用を進めるのであれば長期的な併用案も検討すべきだと思います。	反対	反対

(一人暮らし) 高齢者、精神障がい者の方への説明、拒否などある方への説明、対応に業務以外で時間をとられる。コストがかかるがどれだけ国からの支援があるのか金額ではないのか。セキュリティ対策の信憑性。	反対	反対
高齢者や精神障がいのある方で、保管や手続き、対応などの理解ができない方も多。全て一体化（一本化）にする利便性は有効と考えるか。全てを電子化することが利便性の向上につながると思われない。	反対	反対
セキュリティに不安があります。これからマイナンバーカードを作るのが大変な方もいる。	反対	反対
実際の現場の意見を聞いてほしい。	どちらでもない	反対
資格確認など、マイナカードとどの程度連動されるか見えてこない。	どちらでもない	反対
病院でも保険証のところあり（読みとり機器と通信の状態）。解決すべき事と進む指針がわからず、先行してほしくない。	どちらでもない	反対
高齢者、認知症世帯がマイナカードの暗証番号管理についても困難になるのではないかと思う。紛失についても危惧される。	どちらでもない	反対
とくに、認知症で一人暮らしの方への対応困難が不安である。	どちらでもない	反対
すべて廃止にするにはもう少し準備期間があったほうが良いと思われる。	どちらでもない	反対
認知症の利用者が暗証番号を管理する事は困難。現状、マイナンバーカードの必要性が理解できていない利用者も多く、国全体としてするのであれば、1軒ずつ訪問し作成する必要がある。また、高齢者に必要性があっても申請のやり方がわからないのでは？ もっと考えなければいけないことが多い。	どちらでもない	どちらでもない
高齢者に対応が可能なのか疑問。体制が整い業務が簡素化されるのは良い。	どちらでもない	どちらでもない
すべての利用者に対して健康保険証番号が把握でき管理する事が確実にできるのか？ 無事にできるのか？（不安）誰がどこですのか？ 問い合わせでも答えてもらえるのか？ 医療保険請求することが不安（自分で請求しているため）。	どちらでもない	どちらでもない
マイナカード読み込み機、管理ソフトとの連携、情報管理に不安。どう確認していくか（訪問して）。	どちらでもない	賛成
高齢者がカードや暗証番号の管理は絶対に困難！ その上、家族は他県など遠方にいる場合、帰省されるまで保険証などの確保ができないのか？ 請求遅延など業務が滞ることや事務の手間の増加など支障が出ると考えている。	無回答	反対
設備にコストや準備の時間がかかるので2024年の義務化は早急すぎる。まだまだ時間が必要。	無回答	反対
高齢独居の老人が大きく、マイナカード等、誰が主として支援していくのか不明確。	無回答	反対
推進するのは国の施策ですが、問5：選択肢の2つ目（物理的に対応できない患者）、3つ目（患者への利用案内・支援など）の項目のような弱者に対して、誰がサポートするのかを考えて欲しい。	賛成	どちらでもない
基本的には、全てにおいてオンライン化は賛成だが、マイナカードの件と同様管理側の対策対応をしっかりして利用者が使い易いシステムを構築してほしい。	賛成	どちらでもない
暗証番号管理で困ることが確実。	賛成	どちらでもない
ケアがすぐに提供できない懸念がある。	賛成	どちらでもない